



○令和7年度 修了式（校長講話より）

ようやく温かくなってきたかと思ったら、先週の金曜日には雪が降ったりして、春がやってくるのが待ち遠しい日々です。それでも、生徒玄関前のお寺の「しだれ梅」は、ピンク色のかわいらしい花の数を日に日に増やしていて、間もなく見ごろを迎えます。

さて、終業式にあたりひとつ皆さんにお話をしたいと思います。約1年前、4月の始業式に私は皆さんにどんな話をしたか覚えていますか？私は皆さんに「ウェルビーイング」についての話をしました。ウェルビーイングとは、「心も身体も社会的にも満たされた幸福感、心の豊かさ」を意味しています。

この1年間の学校での生活を振り返ると、皆さんは様々な経験をしてきました。勉強や部活動だけでなく、地域の方から農業体験や職業体験、棒踊りを教えてもらうなどお世話になりました。また生徒会を中心に、体育祭や合唱祭で保護者の皆さんと協力した活動を企画したり、たくさんの異学年、多世代、他地域との交流活動を経験したりしてきました。そしてそれらの活動を通して、相手の立場、考え方、思いなどに触れてきました。

私はそのような他者との関わりこそが、相手のことをよく知り、そして自分自身をよく知ることにつながると思います。そして、そのことが自分自身の幸福度、すなわちウェルビーイングを高めていくことに繋がると思っています。

今現在、世界では様々な場所で紛争や戦争が続けられ、自国の利益を追求するための政策で国同士の分断が進みつつあります。日本国内でもその影響により、物価が上昇し、経済的に不安定な状態により、貧富の差が広がっているといった指摘もあります。

このような世の中だからこそ、周りの人たちとの繋がり・協力関係を大切にし、精神的、身体的、社会的に良好な状態を創り上げていくことが大切なのではないでしょうか。この不安定な時代を生きていく君たちだからこそ、「心も身体も社会的にも満たされた幸福感」ウェルビーイングを大切にしていってほしいのです。

最後に、慶應義塾大学の前野教授が提唱するウェルビーイングを向上させる「幸せの四つの因子」を確認して終わりにします。

「やってみよう因子」 やりがいや強みを持ち、自分から進んで取り組める人

「ありがとう因子」 繋がりや感謝、思いやりのこと

「何とかなる因子」 前向きで、何とかなると思えるポジティブな人

「ありのままに因子」 自分らしさを持っている人

普段の生活の中で、「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなるさ」「ありのままに」この4つのキーワードで、みんなのそして白井中学校のウェルビーイングをこれからも向上させていきましょう。

保護者のみなさま

令和7年度の教育課程を大きな事故なく締めくくることができましたのも、保護者や地域の皆様の日頃からの白井中学校の教育活動へのご理解・ご支援のおかげとっております。本当に、ありがとうございます。令和8年度に向けて、生徒たちの学校生活がさらに充実したものになるよう、職員一同、心を込めて邁進してまいります。今後ともお世話になりますが、よろしく願いいたします。1年間、ありがとうございました。